

特集 新潟市では学校図書館の活用を進めています！

子どもの読書習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。全小・中学校への司書配置や学校図書館支援センターによる支援など、全国トップクラスの整備がなされている新潟市の学校図書館では、全ての子どもたちが本の楽しさを知り読書習慣を身に付ける読書活動とともに授業における活用を進めています。

夢につながる学校図書館

新潟市立上所小学校(中央区)



学校図書館は、読書活動を楽しむ場、読書の世界を広げる場、学習や生活の中で生まれた疑問や課題を調べたり解決したりする場、学習で得た知識や技能を生かし伸ばす場、教科学習で作成した作品を展示し全校の児童に見てもらおう場など、さまざまな場面で活用されています。

教科学習でも、国語だけでなく理科や社会科、図工、総合学習など多岐に渡って活用されています。

昨年度、6学年の総合学習『夢に向かって(キャリア教育)』を進めるに当たっては、学校図書館に随分助けられました。

「小説家になりたいんだけど、どうすればなれるのだろう」「自然現象からさまざまなことを考えるのが好きな私は、どんな仕事に向いているのだろう」136名の6年生は、自分の将来、夢について『様々な職業の人と出会い、自分の未来を見つめよう!』のねらいの下、一人一人が自分のなりたい職業、自分に向いていそうな職業を、図書やインターネットを活用して調べました。当初、136人も的人数に対応した多くの図書を揃えることは、無理なこととあきらめていましたが、学校図書館支援センターに相談したところ、150冊もの職業ガイド的な図書を用意していただきました。従来から当校の学校図書館に揃えている図書と、市立図書館からの貸し出しとを合わせて活用することで、多人数の調べ学習が十分に可能になりました。

今回の実践では、図書が手元にあることによって手軽に調べ直しができること、2、3冊の図書を並べて比べ読みをすることによって、自分に必要な情報を取り出すことなど、図書のよさを児童に実感させたり図書活用の技能を習得させたりすることができました。図書により、価値ある情報を手に入れた子どもたちは、夢をたくさん抱えて未来へ一歩近づきました。今後も、学校図書館を教育活動の中に上手に取り入れ、発展的な学習活動を展開していきたいと考えています。

授業で利用される学校図書館と司書の役割

新潟市立大江山中学校(江南区)



大江山中学校では、教員と学校司書が協力して、授業の場面で学校図書館とその資料を活用した学習に取り組んでいます。昨年度は国語や総合学習のほか、英語や技術・家庭科、理科や保健学習の授業でも利用がありました。

2年生国語の授業では、集団読書教材を使用した一斉読書を行いました。教科書の「読書案内」で紹介されている中の1冊、村上春樹著「沈黙」を学級生徒全員で読みました。導入で司書が前半を朗読し、続きを各自で黙読しました。朗読で生徒の関心を高め、授業時間内にほぼ全員に読み切る達成感を味わわせることができました。

3年生英語の授業では、「I Have a Dream」の単元で登場する人物について書かれた絵本「ローザ」の読み聞かせと、同じく登場するキング牧師と人種差別に関する絵本の紹介とを司書が行いました。ある生徒は学習の振り返りの感想で、「読み聞かせで出来事背景などがよく理解できた」と記していました。

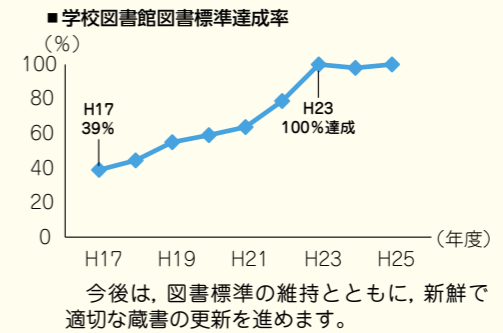
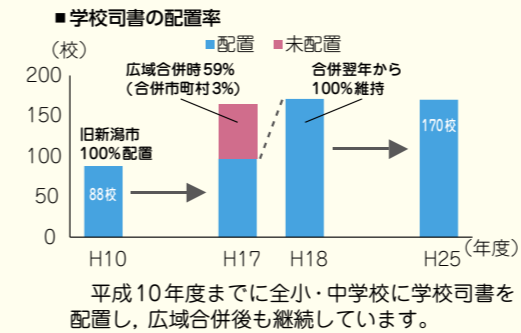
これらの取組は、日ごろから教員の図書館に対する理解と関心があることで行うことができるものです。

図書館は教務室と離れた場所にあるため、図書資料が教員に利用されにくい傾向があります。そこで、「授業で利用される図書館」にするために心がけていることは、教務室で教員と司書とが情報を共有することです。授業について話をすることで授業のねらいを共通理解し、その上で司書からも提案し、これらを基に、適切な資料の提供や購入が行われています。

また、司書が、「授業に関する資料を読む」ことも重視しています。教科書や学校の教育計画、教科の年間指導計画を司書が読むことで授業に活用できる図書資料が分かり、学習利用の提案をすることができます。

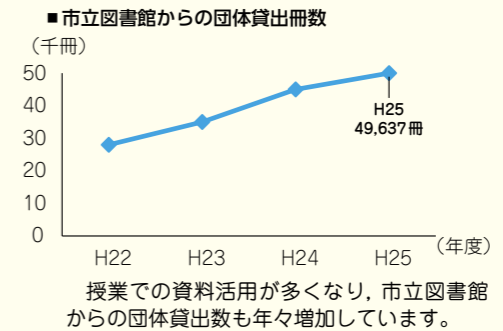
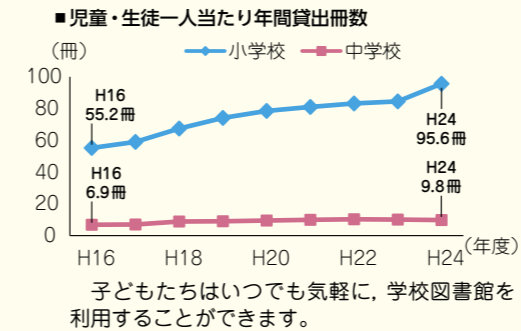
さらに、授業における図書資料活用の記録は教科ごとに残し、同じ依頼内容については、司書がすぐに対応できるようにしています。教員と司書とが協力し、どんな依頼にも素早く的確に対応できることが、次の図書館利用につながると思います。

ココが知りたい! 新潟市の学校図書館(小・中学校)



*学校図書館図書標準
学校図書館の整備を図る際の目標として、平成5年に文部省(当時)が設定したもので、学級数に応じて必要な標準蔵書冊数を示しています。

*団体貸出
新潟市の図書館では、学校教育で必要とされる本などの資料を、同時に150冊まで(1か月間)貸出しています。



この人に聞きたい!

新潟市教育委員会 高橋 恒彦 学校支援課長

Q 今後の学校図書館活用のあり方について教えてください。

A 現行の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得の上に立ち、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力など社会の変化や国際社会に通用する学力の育成が求められています。ここでは、レポートの作成や論述などの言語活動を通して、自ら課題を見つけ、さまざまな資料を調べ、それらに関連付けて自分の考えや主張をもったり、明らかになったことを図や表などを用いて適切に表現したりする子どもの姿が期待されています。また、そうしたさまざまな資料を活用する力の育成において、学校図書館の活用がこれまで以上に大きく期待されています。

本市では、全国に先駆けて全小中学校に学校司書を配置してきました。また、各学校の図書標準も100%に達しました。さらには、国が力を入れている学校への新聞配置についても、中学校で57.9%と全国平均(19.0%)を大きく上回る状況となっています。各学校には、このように恵まれた学校図書館の環境を大いに活用し、学校の教育活動全体を通して、言語活動の充実に努めていっていただきたいと思います。

そのためには、学校司書の工夫を生かしながら、先生方が読書指導に止まらず、授業での学校図書館活用により積極的に取り組んでいくことが大切であると考えます。

Q 各ご家庭にお願いしたいことはどんなことですか。

A 人との出会い同様、素敵な本との出会いは子どもたちの成長にとって、欠かせないものです。新潟市内の学校図書館は学校司書が中心となり、書架の配置やディスプレイ、書籍や記事の紹介などをそれぞれに工夫しています。それは、子どもたちの興味・関心を広げ、視野を広げ、想像力を広げることにより、子どもたちに発達段階に応じた素敵な本に出会ってもらいたいと考えているからです。

ぜひご家庭の皆様からも、今の図書館にどんな本があるのか、子どもたちがどんな本に関心をもっているのかを知っていただく意味で、機会を見つけて学校図書館に足を運んでいただきたいと思います。そして、ときにはお子さんの好きな本について家族で話をしたり、一緒に読書をしたりする時間とっていただけたらと思います。学校と家庭とが手を取り合うことで、素敵な本と出会える子どもたちが少しでも増えることを願っております。